

やまなか きんちょう
山中 錦鳥(1715~1772)

俳人。宇摩郡入野村(現、四国中央市)出身。入野村の医師の娘で本名はかど。山中関卜やまなかかんぼくの妻、時風ときかぜの母。錦鳥は、関卜の夫人として一家を支え、訪れる俳人たちをよくもてなした。また、俳諧をたしなみ、作風は繊細で、生涯で残した句は多くないが、関卜の死後に追悼の『随想句文集』(仮題)2冊を残している。また、信仰心も篤く妹・みちとともに医王寺の本堂「妙照閣」を建立した。

略歴

正徳5(1715)年 宇摩郡入野村に生まれる。
明和元(1764)年 妙照閣を建立
明和6(1769)年9月19日 夫、関卜没す。
明和9(1772)年7月 『随想句文集』(仮題)執筆
安永元(1772)年8月7日 58歳で永眠

〈関連図書〉

- ・星加宗一『入野の俳人 関卜とその子時風』 1960年
- ・星加宗一『愛媛文化双書23 伊予の俳諧』 愛媛文化双書刊行会 1975年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年

〈ゆかりのある場所〉…(P298, 139~140)

〈関連施設〉…暁雨館

〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町入野178番地1 TEL: 0896-28-6325